

Title	流通組織化と中小小売業の環境対応
Sub Title	
Author	西尾長幸(Nishio, Nagayuki) 片岡一郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第423号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0423

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 西尾長幸
(株式会社丸ヨ西尾)
所属ゼミナール 和田充夫研

主査 片岡一郎
副査 嶋口充輝
和田充夫

流通組織化と中小小売業の環境対応

現在、独立の中小小売店をとりまく環境は厳しく、現在の経営のままでは存続さえ危ぶまれている。流通の組織化が進められている現状において、独立の中小小売店にとっては、FCやVC等のチェーン組織への加盟の是非という、組織加盟の選択が店の将来を考えるうえでの重要なポイントとなっている。本研究では、この組織加盟の選択を中小小売商の生き残りのための手段として位置づけ、まず、小売店の持つ条件特性や組織(独立・FC・VC)によって、それぞれの業績および経営に対する満足度が異なることを明らかにした。次に、小売商を経営者の意識構造によって類型化し、それぞれのタイプ別に、最適戦略としての組織加盟の選択を考察した。この結果、チェーン店と独立店の業績・満足度には明らかな差異が認められ、独立店はチェーン組織に加盟することによって、高い業績・満足度が得られることが明らかになった。また、経営者の意識構造による分類では、独立店の大部分はチェーン組織への加盟することによって、高い業績・満足度が得られることが明らかになった。また、経営者の意識構造による分類では、独立店の大部分はチェーン組織への加盟が必要と思われたが、現在の生活にゆとりがある・仕事が生きがいである、と考えている2つのタイプの経営者は、早急に組織加盟の必要はないものと思われた。また、仕事以外のつきあいを重視するようなタイプの経営者は、加盟の選択よりも、経営に対する意識改革が必要である、という結論が分析の結果から得られた。本研究では以上の結果をふまえて、中小小売商、チェーン組織本部、および行政の立場からの提言を行っている。